

ひなの家押野通信第15号

節分の日、厄除けの豆まき 「福は内、鬼は外、コロナも外」



鬼に豆をまく利用者

節分の日3月3日、ホームで豆まきがあり、利用者が「今年はいい年になるように」との願いを込めて豆をまきました。
利用者みんなが最初に「豆まきの歌」や「鬼のパンツ」を歌ってから、スタツフが、鬼がおいしいおにぎりを人間に配る「鬼じゃな

いよおにぎりだよ」という絵本の読み聞かせをしました。
その後、「福は内、鬼は外、コロナも外と、鬼の面をかぶったスタツフめがけて利用者が落花生の豆を投げました。丑年の利用者やスタツフの2人は新聞紙で作った羽織、袴を着て豆

昼食に出された恵方巻



この日は、昼食に恵方巻が出され、利用者を喜ばせました。恵方巻は、節分の日には特定の方角に向かって黙って食べると願い事がかなうそうです。

新聞で作った羽織袴を着て豆をまく年女の利用者



まさを楽しみました。



ひなの家 押野

野々市市押野 1-31
電話076(287)5810



「ひな祭り」(3月3日)を前に、きりぎりやかなひな

ひな壇をきりぎりやかに飾り付け

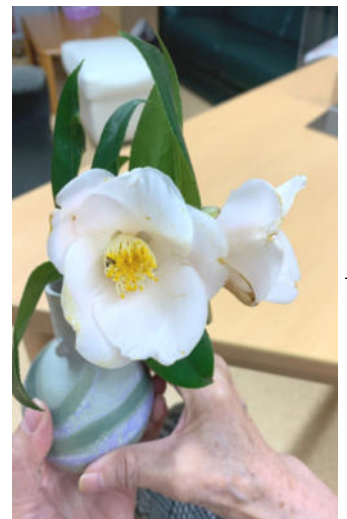
人形を飾り付けたひな壇がホームにお見えし、周囲

四季を撮る



トキ色に染まる野々市ツバキ

白っぽい花びらだが、よく見ると、淡い桃色に染まっています。かつて能登に生息していたトキの羽にも似た高貴な色です。近所の方から、野々市ツバキ6輪をいただきました。野々市は、数多くの品種が育つ「ツバキのまち」です。ツバキが咲きほころべば、もうすぐ春がやってきます。



がパツと明るくなりました。これは、3年前に金沢市内の金物店から寄贈してもらった年代物の7段のひな壇です。利用者やスタツフが、お内裏様やおひな様、三人冠者、五人ばやしの人形を箱から取り出して、壊れないように一旦かりで丁寧に飾り付けていきました。



利用者が寒みそ作りチャレンジ よいしょ、よいしょとミキサー回す

寒仕込みのみそづくりが1月28日、ホームであり、利用者やスタッフが作業に取り組みました。寒の時期に作るみそは寒仕込みといわれ、腐りにくいそうです。この日は大豆、塩、コウジ各10kgを用意。朝からこことと煮込んで柔らかくし



専用ミキサーを回すと、ペースト状の豆が出てくる

た大豆を、みそ屋さんから借りてきた専用ミキサーでつぶします。「よいしょ」「よいしょ」と利用者が交代でハンドルを回すとペースト状になった豆が押し出されていきました。塩とコウジを加えて混ぜ合わせ、野球ボール大のみそ玉を作り、勢いよ

くプラスチックの桶に投げ入れていきました。勢いよく投げ入れるのは、みそ玉に含まれる空気を抜いて腐るのを防ぐためだそうです。できたみそは、倉庫に保管し、半年から1年間発酵させ、ひなの家押野で使います。



みそ玉を作る

塩とコウジを混ぜる



コロナ発生に備え、ゾーニング研修

汚染度別に4ゾーン 感染者を看護、支援



レッドゾーンで支援策を説明する秋田施設長

新型コロナウイルスの感染者が発生した場合に備え、施設を分けてウイルスを封じ込め、感染者を看護、支援する「ゾーニング(区分)」の研修会が2月1日、スタッフが参加してありました。ゾーニングはコロナ感染者が発生し、入院できない場合に対応、施設内で看護、支援する方法です。汚染度別に4つのゾーンに分け、汚染度が低い

順からグリーン(汚染なし)、オレンジ、イエロー、レッド(感染者を収容)に区分け。スタッフがグリーンでフル装備し、オレンジ、イエロー、レッドの順で入り、逆の順で戻ります。秋田利恵施設長は「感染者が拡大しないように、きちんとゾーニングするほか、マスクや手袋を2枚着用するなど十分な装備で対応したい」と話しました。

ジャンボ草履がホームに登場 福を呼ぶと、利用者に評判



ジャンボ草履がホームに飾られ、「福を呼ぶ」と利用者に評判になっています。調理担当スタッフの小納谷良次さんが自宅にあったのを持ち寄りました。縦35cm、幅15cmで、編んだわらでできています。

◎編集後記

近所の人から緑が初々しいフキノトウをいただいたきました。早速、フキノトウみそに調理して、昼食に出すと、利用者は大喜び。ホームの中にずっといると、季節に鈍感になりがち。フキノトウのほろ苦い味は、利用者には「春を呼び起こさせました。季節の贈り物。ありがとうございます。」(浦上)

